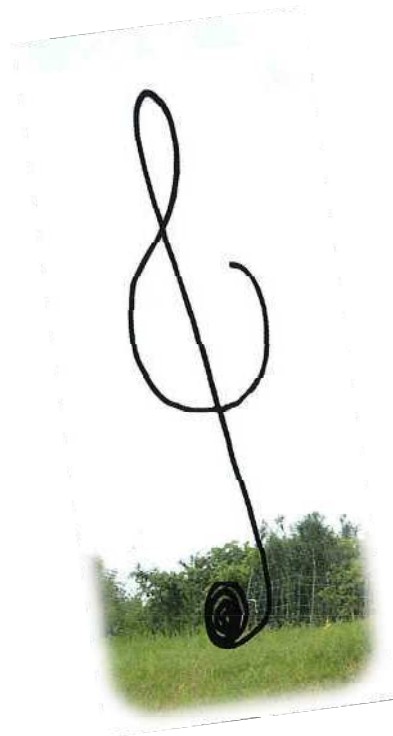


KOTO 未来創生計画 (モノトーン KOTO)

モノ（者）トーンとは

いま厚東に居る者、これから住む者
や訪れる者、厚東に関わる全ての者
たちが奏でる協奏曲です。

一本の線で「とき」と「ひと」が
つながら、未来に続いていくのがモノ
トーンです。



平成29年3月

厚東校区コミュニティ推進協議会

厚東校区自治会連合会

NPO法人厚東ネット

目 次

1 現況と課題

- (1) 厚東校区の概況
- (2) 先駆的な地域づくり
- (3) 課題

2 地域づくり計画

- (1) 4つの基本方針
- (2) 具体的な活動

3 推進体制

4 おわりに

1 現況と課題

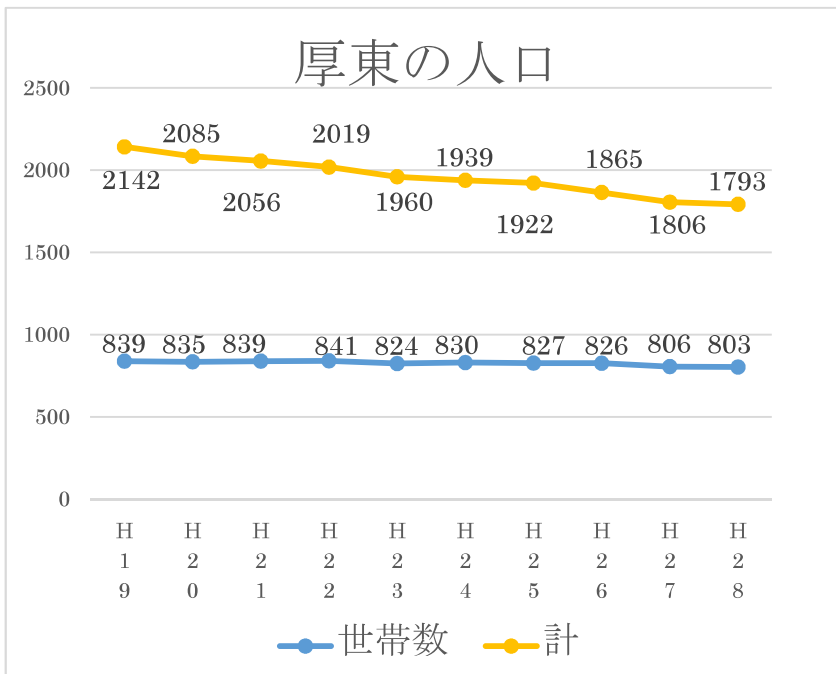
(1) 厚東校区の概況

厚東校区は、宇部市のほぼ中央部に位置し、面積は、24.33 km²で、万倉校区、東に二俣瀬校区、西には船木校区が隣接する、美しくのどかな田園風景が広がる自然豊かな地域です。

校区内の人口は803世帯、1,793人で、65歳以上が750人、高齢化率は約41.8%となっています。※

今から700年前に戦国時代の武士が傷を癒したと言われる古い歴史を持つ持世寺温泉、県指定史跡の霜降城跡やいかだ下りが開催される厚東川があり、その他にも恒石八幡宮や千林尼石畳道、山陽道跡など、豊富な歴史的な地域資源を有する地域です。

※平成28年10月1日現在



(2) 先駆的な地域づくり

厚東校区は、地域づくり活動の活発な地域です。特に子育て支援については、厚東ひだまり教室が平成17年度文部科学省第1回放課後子ども教室推進表彰を、また、厚東小学校コミュニティスクールが平成23年度文部科学大臣賞をそれぞれ受賞しており、全国的にも高い評価を受けています。

現在も、厚東校区コミュニティ推進協議会、厚東校区自治会連合会、NPO法人厚東ネットが中核となり、市内でも先駆的な地域づくり活動を推進しています。

(3) 課題

しかし、人口の推移を見ると、過去9年間で300人以上、16%以上減少しており、今後も過疎化が進むと思われます。

また高齢化率も上昇すると思われ、地域活性化を推進するためには、地域の担い手や農業の後継者不足の解消、空き家、耕作放棄地等の有効活用などが課題です。

(1) 4つの基本方針

- 校区人口の増対策
- 教育・子育て支援
- 安心・安全な環境づくり
- 地域資源の活用

(2) 具体的な活動

■ 校区人口の増対策

◎ 空き家の利活用

- ・ 空き家プロジェクトを推進する
- ・ 情報収集と発信を強化する（新規）
- ・ 居住中の前情報収集にも取り組む（新規）

◎ 就農支援・促進（新規）

- ・ 若者の就農支援に取り組む
（生活と定住の支援、仕事や働く場の支援）
- ・ 若者への効果的なPRを考える

◎ 厚東校区版地方創生総合戦略

- ・ リーフレット等により厚東の良さを積極的に発信する
- ・ 特認校制度を積極的にPRし厚東小の児童を増やす
- ・ 若者の定住と校区外からの若者の移住に力を入れる

■ 教育・子育て支援

◎ 小学校と連携した特色ある教育環境づくり

- ・ KOTOサマースクールなどグローバル体験に取り組む
- ・ 校区行事へ外国人を招聘する
- ・ 特色ある教育環境で学べる「教育の地」としてPRする
- ・ 少人数での教育をPRする

◎子育て世代をバックアップ

- ・ひだまり教室の運営を維持・発展させ子育てを支援
- ・地域で子ども達を育む
- ・地域で青少年の健全育成に取り組む

◎体験学習の創出

- ・自然とのふれあいを活用した体験学習の場をつくる
- ・竹林を活用する

■安心・安全な環境づくり

◎校区全体で取り組む向こう三軒両隣

- ・多様な世代が生き生きと暮らし続けられる自治会づくり
- ・顔が見える近所付き合い。古くて大事な新しい近所付き合い
- ・身体を動かして話もできる場をつくる
- ・地域ぐるみでの健康づくり

◎校区全体で取り組む防犯・防災体制

- ・防災意識を高め、まずは自治会（両隣）単位での防災体制づくり
- ・見守り体制を推進する
- ・向う3軒両隣での助け合いを推進する

■地域資源の活用

◎観光資源への取り組み（新規）

- ・イベントやツアーリズムを開催する
（持世寺・霜降山・厚東川・竹林・どんだけ道などを活用）

◎地域資源を活かした取り組み（新規）

- ・農産物の直売に取り組む
（出品者の収益を目指して）
- ・健康を意識した厚東ブランドを確立する
（農産物、持世寺温泉、霜降山の鉱泉水など）
- ・厚東駅付近を有効活用する
（玄関口としての賑わい復活、駅舎の活用、周辺の地域や施設と連結）

3 推進体制

KOTO未来創生計画は、厚東をこれからどうするのかの一つの計画です。

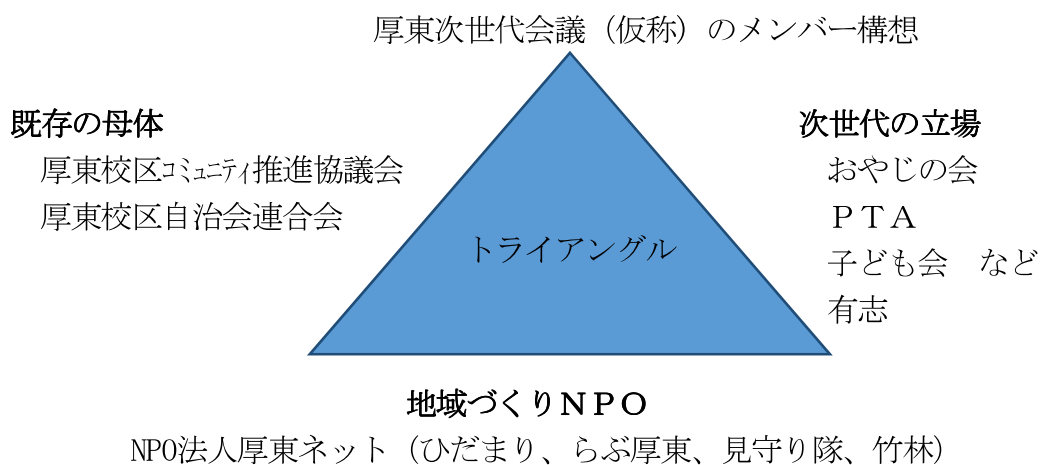
今から何をやっていくべきか、どう実践していこうとするのかの推進体制が必要です。

一部の人、肩書のある人、役職の人にかたよることなく大勢の想いを一つにしていけることがみんなの地域計画です。

特に、次の世代、そして、その次の世代をつないでいく若者が気軽にその議論・推進の場に居ることが最も不可欠であります。

そのための会議・推進体制を、例えば「**厚東次世代会議（仮称）**」と称したらいかがでしょうか。

地域づくりの答えは地域により異なってよいと考えます。ここに住む者の気概と責任で厚東づくりにロマンをもちながら進めていきましょう。



会議発足にあたりましては改めてご案内しますので厚東の未来に向けて快いご参加お願いいたします。

4 おわりに

何のために？ めざすものは何？

この計画は、先人が、そして今を生きる者が取り組んできた厚東づくりの足跡を振り返り、これからの少子高齢化社会を受け止めながら、「厚東で暮らし続けたい、厚東に住んで良かった」を次の世代に繋いでいきたい素案です。

この地に住む私たちは、それぞれに思いがあります。計画を作るにあたり、当初に実施したアンケートの回収率は、72.9%と多くの方に関心をいただきました。また、これまで厚東で2回のワークショップを開催し、たくさんの意見も交換し合いました。

その意見をまとめ、こうありたいを表現したのがKOTO未来創生計画（モノトーンKOTO）です。

この計画は強制されるものではなく、厚東が将来に向けた「ありたい姿」の一つの方向性を「見える化」したものです。

「とき」と「状勢」により計画の見直しや新たなプランも生まれていくことも大事です。厚東の次の時代を担う若いみなさん、また次の世代を見据えた厚東づくりの議論の一つの叩き台にして取り組んでいきましょう。